

1 スクール・ミッション、学校教育目標
＜スクール・ミッション＞ 計画的・効果的なキャリア教育を推進するとともに、実践的・体験的な教育活動や、地域・社会と連携・協働した教育活動等を通して、知・徳・体の調和がとれ、チャレンジ精神を備えた、地域・社会の活性化に主体的に貢献できる人材を育成します。 校訓 至誠一貫・進取向上・自治協同 教育目標 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成 育てたい生徒像 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒

2 スクール・ポリシー	
グラデュエーション・ポリシー (育成をめざす資質・能力に関する方針)	・ 高い志と使命感をもち、社会に貢献する生徒を育成します。 ・ 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジするたくましい生徒を育成します。 ・ 互いに協力しながら、主体的に行動する生徒を育成します。
カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)	・ 進学に対応した教育課程を編成し、少人数指導によるきめ細かな指導やICTを活用した授業等を行い、学習習慣を定着させ学力向上につなげます。 ・ 系統的、計画的なキャリア教育により、生徒一人ひとりの進路実現を図ります。 ・ 諸課題の解決に向けた探究活動やボランティア活動を通して、社会的意識を高め、地域への貢献を図ります。
アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)	・ 将来への目的意識をしっかりとち、進路実現に向けて積極的に勉学に取り組む生徒を募集します。 ・ 本校の校風である「文武両道」の精神を理解し、自分の将来の夢に向かって努力する生徒を募集します。

3 現状分析
本校は「『文武一徳』の人づくり」を教育目標に掲げ、全人的な発達・成長をめざした教育を進めている。学校評価アンケートの結果から、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者に理解されており、学校に対する信頼を確立している。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を積極的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても理解をいただいている。 しかし、今年度は入学者が定員割れを起こしており、中学生にとって魅力ある学校づくりが不可欠である。また、進学実績については、国公立大学や有名私立大学の合格者の割合はやや増加傾向にあるものの、生徒が幅広い選択の中から大学進学に対応できるように学力の向上を図っていくことが喫緊の課題である。そのために家庭学習の時間を確保するとともに、電子黒板だけでなく、生徒のタブレットを効果的に取り入れた授業改善など学力伸長のための具体的手立てを学校全体で取り組む必要がある。さらに、大学関係者やOBを活用した取組やオープンキャンパスなどの外部連携を図るなどキャリア教育の充実を進めながら早期から進路意識を高めていく必要がある。 生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対しては、個別の教育相談や指導・支援について、早期対応に重点を置きながら組織的に進めていく必要がある。

4 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題
【令和7年度の重点目標】「生徒の主体性を育み、一人ひとりの夢を実現する豊浦」 1 地域から信頼される魅力ある学校づくり 2 生徒一人ひとりの進路実現に向けた学力の向上 3 学校における働き方改革の推進 【令和7年度チャレンジ目標】 「 豊浦魂～一人ひとりが主人公～ 」

5 自己評価						6 学校運営協議会	
評価領域	重点目標	具体的方策 (教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	委員からの意見・要望等	分類
教務	授業力の向上	生徒が確かな学力を身につけることができるよう、研究授業や校内研修、教員間での授業見学、授業アンケート等を通して授業改善を促進する。	授業力向上のために、研究授業や、校内研修(互見授業)に参加した教員が				
			4: 100%であった。				
			3: 80%以上であった				
生徒	社会性とコミュニケーションスキルの育成	生徒会活動や課外活動を中心に、社会奉仕活動に積極的に取り組み、地域に愛される学校づくりをめざす。その際、校内外での挨拶、地域、教師と生徒及び生徒同士の対話を通じ、コミュニケーションスキルの向上を目指す。	本校主催あるいは地域関係機関主催の社会奉仕活動への参加が				
			4: 15件以上だった				
			3: 10件以上だった				
生徒	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。交通安全教室を実施する。登校指導を実施する。危険通学路箇所では指導を実施する。全体集会における諸注意を実施する。	2: 5件以上だった				
			1: ほとんどなかった				
			4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内、かつマナーの徹底ができた。				
生徒	高校生活への適応と心の健康の保持 〔教育相談室〕	教育相談の立場から、個人の内面の問題や人間関係上の問題に対し、校内外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	3: 計画どおり指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。				
			2: 計画どおり指導ができたが、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがあまり守られなかった。				
			1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られなかった。				
生徒	高校生活への適応と心の健康の保持 〔教育相談室〕	教育相談の立場から、個人の内面の問題や人間関係上の問題に対し、校内外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	4: 学年団及び校内外の関係機関と連携し、問題を抱える全ての生徒とその家庭を組織的に支援することができた。				
			3: 学年団及び校内外の関係機関と連携し、問題を抱える生徒とその家庭を組織的に支援することができた。				
			2: 教育相談室として対応に努めたが、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。				
生徒	高校生活への適応と心の健康の保持 〔教育相談室〕	教育相談の立場から、個人の内面の問題や人間関係上の問題に対し、校内外の関係機関と連携して迅速にケース会議を設置する。これを基盤に、問題を抱える生徒とその家庭へ初動重視の組織的支援を行う。	1: HR担任が一人で問題を抱え込んで孤立し、問題を抱える生徒とその家庭への組織的な支援が行われなかった。				

進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	進路希望・学習量調査や学習時間記録表を活用するなど、学習への取組を振り返り、主体的な学習への取組を促す。	家庭での学習習慣が身に付いたと自覚した生徒が 4： 80%以上であった。 3： 60%以上であった。 2： 40%以上であった。 1： 40%未満であった。				
	進路情報の提供の充実	進路ニュースを定期的に発行することや進路講演会、キャリアセミナーなどを開催することで、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し、進路意識の向上を図る。	学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が 4： 80%以上であった。 3： 60%以上であった。 2： 40%以上であった。 1： 40%未満であった。				
総務	情報提供の充実	ホームページやマチコミメール等を十分に活用して、積極的かつ迅速な学校情報の発信に努める。	学校評価アンケートの「学校情報発信に関する」項目で肯定的評価が 4： 80%以上であった。 3： 60%以上であった。 2： 40%以上であった。 1： 40%未満であった。				
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた蔵書を整え、特に生徒については、読書習慣の定着を図る様々な取組を行いながら、本の貸出の増加に努める。	今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の 4： 50%以上であった。 3： 40%以上であった。 2： 30%以上であった。 1： 20%以上であった。				
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上をめざし授業の充実を図る。	4： 3学年とも目標以上であった。 3： 2学年において目標以上であった。 2： 1学年において目標以上であった。 1： 全学年とも目標に達していない。				
	学校安全の徹底	①手洗い、うがい、換気等をおこない、感染症防止に努める。 ②体育的行事において体育用キャップの着用や水分補給を十分に行い熱中症対策に取り組む。 ③自分の健康状態（メンタル含む）の把握に努める。	年度末アンケートを実施し、「手洗い、うがい、換気等をおこない感染症防止に努めた」、「体育的行事においてキャップ着用や水分補給を行い熱中症対策に努めた」、「自分の健康状態を把握するための具体的な活動ができた」の3項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70%以上の項目数により、以下のように評価する。 4:80%以上であった。 3:60%以上であった。 2:40%以上であった。 1:40%未満であった。				
1年	進路実現のための基礎作り	①基本的な生活習慣を確立させ、かつ学習習慣の定着を図るため、掃除や整理整頓の徹底を呼びかけるとともに、学年集会や学年だよりを通して、生活、学習、進路に関する情報発信、指導を行う。 ②学校行事、HR活動、授業、部活動等を通じて、主体的、計画的な行動を身につける。 ③挨拶、会話等を通じ、コミュニケーション能力を育てる。 ④担任や教科担当、部活動顧問との連携を密にし、報告・連絡・相談を徹底させる。	年度末アンケートを実施し、「基本的な生活習慣が確立できた」、「学習時間を平日2時間、休日4時間、確保できた」、「主体的に活動できた」、「計画的に活動できた」、「コミュニケーション能力が高まった」の5項目について、各項目ごとに「できた」、「ややできた」の回答合計数の割合Aを算出し、割合Aが70%以上の項目数により、以下のように評価する。 4： 4項目以上であった。 3： 3項目であった。 2： 2項目であった。 1： 1項目以下であった。				

進路指導	
総務	
保健体育	
1 年	
2 年	
3 年	
地域連携	
事務	
業務改善	

8 次年度への改善策	
教務	
生徒	
進路 指導	
総務	
保健 体育	
1 年	
2 年	
3 年	
地域 連携	
事務	
業務 改善	